

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かなこどもを育てる～



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第100号 R5. 9. 15

3校交流 in 初谷川 ～吉川小学校・光風台小学校・東ときわ台小学校～

まだまだ残暑が厳しい中、比較的涼しい初谷川では、ミンミンゼミやツクツクボウシが元気よく鳴っていました。

8月31日、西地区3小学校の2年生57名が初谷川に集まり、「生き物探し」の交流授業を行いました。「生き物探し」の活動に入る前に、吉川小学校と光風台小学校の児童、吉川小学校と東ときわ台小学校の児童が一つのグループになり、サポーターさんが入って、「ハットミーティング」を行いました。大人から気を付けることを伝えるのではなく、「ハットするようなことに遭遇した場合、どのようなことに気を付けたらよいのか」を児童自身が考え、意見を出し合いました。子どもたちから、「石や木がたくさんあるところでは、走らないようにする。」「生き物探しに夢中になり過ぎて、グループから離れて1人で行動しない。」などの意見が出され、よく考えていました。

カニの幼个体（赤ちゃん）をお腹に抱えている母親カニを見つけた子が、とても大事にしていました。この日、子どもたちは、自然の危険とめぐみ、自然の中で生きる生物の命、そして普段接することの少ない他校の仲間たちや大人との触れ合いを通して、様々なことを学んだことでしょう。このような機会を重ねていくことができればよいと思います。



安全確保のため、たくさんのサポーターさんにご協力いただきました。



範囲を決めての活動。



見つけるコツは、石の裏。



一生懸命に探しました。



たくさん見つけました！



最後は川に返しました。

とよのを知ろう とよのを学ぼう ② 「とよの未来科」の実践始まる

「とよのを知ろう！伝え合おう！分かち合おう！」

～毎日がセンス・オブ・ワンダー！！～（ふたば園）

毎日の生活の中で、子どもの主体的な学びにつながる遊びを探求しています。分かち合う楽しさ（共同性）を育み、思考力、表現力、自立心につながるよう、進めているところです。

園生活の中で自然と科学の融合を考え、5歳児が、元理科教員の職員と一緒に科学あそびを楽しむ「科学の時間」を持ち、いろいろな発見や気づきができるような活動をしています。

今回は、「水とは何だろう？」をテーマに活動した様子を紹介します。

まずは、温度計で水の温度を計ってみました。水を冷やすと氷になることはよくわかっていた子どもたち。氷の温度は、0度ぐらいと聞いてびっくりした様子でした。そこで、1つ目の実験タイム！お皿の上にグラスを置き、グラスいっぱい氷を入れて、水を注ぎました。「少しおいておくとグラスはどう変わるのか」という実験です。グラスには水滴がたくさんついて、「この水はどこから来たの？」とみんなで考えました。空気中の水の粒が冷えてとんどん集まってきてグラスにくっついているんだと教えてもらい、不思議そうにしている子どもたちでした。さらに氷を加え、水をぎりぎりまで入れておき、氷が溶けたら水はあふれるのか実験もしました。給食後、グラスの水は少し減り、グラスの下のお皿にはたっぷり水が溜まっています。「グラスの中の水があふれたんじゃない？」「グラスに水がついてないから、お皿の水は水滴だよ」と自分なりに考えていた子どもたちでした。

今後は、豊能ならではの雪や氷に関心がもてるような取り組みをしたいと考えています。子どもたちの心が揺さぶられるような経験を友だちと共有することが、「かかわる力」や「いかす力」、「うごく力」などにつながっていくことと思っています。



小学校 ALT の先生と一緒に過ごした夏の日（吉川保育所）

小学校 ALT（外国語指導助手）の Amy Doyle（エイミー・ドイル）先生が、小学校の夏休み中に吉川保育所で子どもたちと過ごしました。子どもたちは、エイミー先生の姿を見つけるとすぐにそばに寄っていき、臆することなく「5は英語で何ていうの？」「4は？」などと話し掛け始めました。エイミー先生がやさしく、ゆっくりと「ファイブ」「フォー」などと答えると、子どもたちはすぐにエイミー先生の発音を聞いて真似をしていました。



エイミー先生と積極的に話をする子どもたち。



輪になってみんなで一緒に踊りました。

子どもたちや先生たちが輪になって、「エビカニックス」などを踊りました。楽しそうでした。

今後も様々な機会に、子どもたちが外国の方や外国語に触れ合うことによって視野を広げてほしいです。